

本別町地域公共交通活性化協議会 平成22年3月23日設置



本別町

概要

本別町は、人口約9千人の過疎地域であり、高齢者の通院等の住民生活に不可欠な公共交通は、旧ふるさと銀河線から転換された民間路線バス及び町営バス等により維持しているが、少子高齢化・人口減に伴う利用者の減少や生活行動パターンに沿った利便性の確保等が課題となっている。このため、町営バスの路線等再編、民間路線バスと町営バス相互の連携など、町民等の交通行動やニーズ等を踏まえた有効かつ効率的な公共交通手段の確保等の調査検討を実施する。

地域公共交通の現況

- ・十勝バス(株) (地域間2路線)
- ・町営バス (太陽の丘循環バス3路線、へき地患者輸送バス5路線、町有バス6路線、生活維持路線 (地域間1路線))
- ・スクールバス (8路線)

地域公共交通の課題

- ・路線バスの利用が低迷
- ・路線バスの相互の連携
- ・高齢者の通院・買物等の移動手段の利便性向上
- ・町民ニーズ等を踏まえた有効かつ効率的な交通手段の確保

調査の主な内容

- ・現況交通実態調査
- ・利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)
- ・コミュニティバスやデマンド型交通の試験運行

策定する地域公共交通総合連携計画の構想 (予定)

- ・町営バスの路線等再編
- ・民間路線バス・町営バス相互の連携
- ・民間バスの運行再編



本別町地域公共交通活性化協議会 調査事業の取組状況

協議会開催状況

4回開催

分科会等開催状況

幹事会：2回開催

開催状況は平成22年度中のもの(開催予定を含む)

主な調査の実施内容

現況交通実態調査

各種統計資料により地域別・年齢別人口等把握調査及び町内を運行するバスの乗降調査 (H22.11.24～11.30) を実施

利用者ニーズ把握調査 (アンケート調査)

太陽の丘循環バス利用者を対象に、バス利用目的やOD把握等のためのアンケート調査を実施 (H22.11.24～12.3)

町内主要買物施設2箇所の買物客を対象に、利用交通手段、施設滞在時間や潜在的な公共交通ニーズ等の把握を目的としたアンケート調査を実施 (H22.11.24)

国保病院通院患者を対象に、利用交通手段、病院滞在時間や潜在的な公共交通ニーズ等の把握を目的としたアンケート調査を実施 (H22.11.24)

太陽の丘循環バスの見直しを目的とした試験運行

現在通院患者の利用が主となっている循環バスの利用者拡大のため、買物にも利用しやすいルート・ダイヤに見直した試験運行を実施 (H23.1.17～2.18 運賃100円(現行の循環バスと同じ運賃))

その他の調査

地域公共交通に関する問題意識の共有及び公共交通に関する地域との連携の可能性等を把握するためのヒアリング調査を実施 (H22.11.10～11.30 ヒアリング対象：医療機関、商業施設、交通事業者など)

予定している主な連携計画の内容

太陽の丘循環バスの見直し(実施主体：本別町、本別ハイヤー(有)、着手時期：H23～)

町内の交通弱者が自由に町内市街地を移動できるコミュニティバスとして機能することを目指して、運行内容の見直しを図る

スクールバスの有効活用(実施主体：本別町、本別町教育委員会、着手時期：H23～)

住民混乗可能なスクールバスをニーズを踏まえた運行内容に見直し、利便性を高め、より一層の有効活用を図る

利用促進に向けた取組の実施(実施主体：本別町、ほんべつポイントカード協同組合、交通事業者、実施時期：H23～)

商店街との連携による商店街での買物やバス利用の機会拡大のため、バス利用の買物客に対し、買物ポイント割増サービスを実施

町内の交通網全体をわかりやすく紹介する交通マップの作成・配布

自己評価のポイント

利用実態調査、アンケート調査、循環バスの見直し試験運行等により必要な調査を行うとともに、法定協議会において地域関係者を対象としたヒアリングも行いながら合意形成を図っている。



二次評価の方向

次に掲げる点についてアドバイスする。

調査の結果明らかになった課題やニーズ、試験運行の結果等を十分に分析の上、連携計画を作成されたい。

太陽の丘循環バスの見直し等に当たっては、既存の路線バスとの乗継ぎ円滑化等にも配慮しつつ、引き続き具体的な方向性について検討されたい。